

日本臨床心理身体運動学会第 22 回大会 第 1 号通信

令和 元年 7 月

この度、日本臨床心理身体運動学会第 22 回大会を新潟市で開催させていただくことになりました。新潟県での開催はこれが初めてとなります。

今回の第 22 回大会では、メインテーマを「行・鍛錬・修練—日本的なところとからだ」としました。修行としての回峰行、武道における「型・形」、相撲の特訓稽古としての「かわいがり」あるいは現在まで続くスポーツ界のしごきの問題など、わが国には伝統的に体を極限まで追い込むことで精神的な変革(成長)を果たそうとする試みが脈々と受け継がれているように感じます。そこで今回の大会テーマでは、「行・鍛錬・修練」といった日本的な身体へのアプローチとその体験に焦点を当て、本学会会長の山中康裕先生のご講演を核としながら日本的な心身のつながりについて理解を深めていくことができればと考えています。

大会日程は、11 月 30 日(土)～12 月 1 日(日)で、もしかしたら雪のちらつくことも考えられます。会員の皆様にはご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、スタッフ一同、鋭意準備を進めておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

日本臨床心理身体運動学会第 22 回大会
大会実行委員長 山崎 史恵

I. 会期・行事

1. 会期

令和 元年 11 月 30 日(土)、12 月 1 日(日)の 2 日間。
なお、常任理事会は 11 月 29 日(金) 19:00 から行う予定です。

2. 行事

研究発表、ワークショップ A～D、基調講演・シンポジウム、総会、理事会、懇親会

3. 大会スケジュール

◇11 月 29 日(金) 常任理事会 19:00～21:00

◇11 月 30 日(土) 受付開始 9:30～

10:00	11:20	11:30	12:50		14:30	15:50	16:00	17:20	18:30	20:30	
一般研究発表		一般研究発表			一般研究発表		一般研究発表		懇親会		
				13:10	14:10						
				新・旧理事会							
10:00				13:00		14:30				17:30	
事例研究発表						事例研究発表					

◇12 月 1 日(日) 受付開始 8:30～

9:00	11:30	11:45	12:15	13:00	16:00
ワークショップ A (山中康裕 先生)		総 会		基調講演・シンポジウム	
ワークショップ B (名取琢自 先生・高橋幸治 先生)				「行・鍛錬・修練—日本的なところとからだ」	
ワークショップ C (岸本寛史 先生)				講 師: 山中 康裕 先生	
ワークショップ D (山 愛美 先生)				(京都大学名誉教授・京都ヘルメス研究所長・本学会会長)	
				基調講演: 私の必死な半年間	
				国際華厳経学会特別講演のための華厳経六十巻の写経三昧体験	
				討論者:(準備中)	

※ ワークショップおよび基調講演・シンポジウムにつきましては巻末資料をご覧ください

II. 会場

メイン会場：ガレッソホール <JR新潟駅東口（万代口）直結>
〒950-0086 新潟市中央区花園1丁目2番2号
コープシティ花園ガレッソ
TEL：025-248-7511

サブ会場：新潟第一ホテル <JR新潟駅東口（万代口）徒歩3分>
〒950-0086 新潟市中央区花園1丁目3番12号
TEL：025-243-1111

新潟空港から JR 新潟駅への
リムジンバスがあります。
また、会場近隣には有料駐車
場が複数あります。

※ 詳細につきましては、大会ホームページ、プログラム（大会前に郵送予定）をご参照ください。

III. 大会参加、研究発表の資格

1. 大会参加資格

大会参加者は、原則として令和 元年（2019 年）9 月現在、および大会当日も日本臨床心理身体運動学会会員でなければなりません。また、2019 年度の会費を納入していない会員は、大会（研究発表）参加することができませんので御留意ください。

ただし、準会員・賛助会員は、会則第 6 条の規定により事例研究発表に参加することができません。

2. 研究発表資格

研究発表者は、原則として令和 元年（2019 年）6 月現在、および大会当日も日本臨床心理身体運動学会会員でなければなりません。

ただし、準会員・賛助会員は事例研究発表を行うことはできません。

※ 本学会員は、会員移行申請のためのポイントとして以下のポイントを取得できます。

- 1) 大会（ワークショップを含む）参加者 2ポイント
 - 2) 事例研究発表者（一般研究を除く） 3ポイント
- ただし、1) と 2) は加算しない。

※ 大会参加により、臨床心理士資格の更新ポイントに認定されます。

- 1) 本学会は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会より承認学術団体として承認されているため、学会大会の参加・発表には、臨床心理士の継続研修の更新ポイントが加算されます。
- 2) 詳しくは「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」の『「臨床心理士」継続研究会承認申請 手引書』をご参照ください。
- 3) 大会参加名札と大会プログラムを、各自で上記資格更新時にお使いください。

IV. 研究発表の要領

1. 発表形式

- ・事例研究発表：発表時間は 3 時間を予定しています。発表内容は、一般の心理面接および競技者の心理面接（心理療法）、その他心身に関わる事例とします。
- ・一般研究発表：発表時間は 1 時間 20 分を予定しています。発表内容は、一般およびスポーツや競技者に関する心理臨床の調査、基礎研究等とします。

2. 事例研究発表の条件

- ・原則として「継続中の事例」でないこと（ただし、中断事例は可）。
- ・他の学会で発表していないこと。
- ・内容に何らかのオリジナリティがあること。
- ・競技者の事例の場合、種目特性や競技日程等に注意を払い匿名性に最大限の配慮をすること。

3. 一般研究発表の条件

- ・他の学会で発表していないこと。
- ・内容に何らかのオリジナリティがあること。

V. 大会参加・研究発表の申込要領

1. 大会ならびに懇親会の申し込み

- ・令和 元年（2019 年）9 月 30 日までに大会ホームページ（参加申込リンク）または、同封の大会参加申込書（郵送・FAX：025-257-4687）により申し込んでください。
郵送でのお申し込みの場合は、お手数ですが切手を貼ってご返信ください。

大会ホームページ URL： <https://sites.google.com/nuhw.ac.jp/rinsinsin22nd>



2. 研究発表の申し込みと論文抄録集原稿の提出

- ・研究発表（事例・一般）の希望は、大会ホームページまたは、同封の大会参加申込書から申し込んでください。令和 元年（2019 年）8 月 31 日まで受け付けています。なお、発表希望者には大会実行委員会から後日ご連絡をさせていただきます。
- ・研究発表が決定した方は、研究発表の抄録（原稿およびデータ）を令和 元年（2019 年）9 月 30 日までに提出してください。原稿は Word で作成し、打ち出し原稿は A4 サイズ 2 枚（字数は 4000 字から 4800 字程度）とします。（抄録用フォーマットは大会事務局より送信します。）

※ 研究発表希望者が多数の場合は、大会実行委員会で選考の上、発表者を決定します。

VI. 諸費用とその納入先

1. 大会参加費、ワークショップ参加費、懇親会参加費

会員種別	内 容	事前振込金額	当日参加金額
正会員 一般会員	大会参加費	9,000円	(10,000円)
	ワークショップ参加費	6,000円	(7,000円)
	懇親会参加費	7,000円	(7,000円)
準会員	大会参加費（大学院生含む）	6,000円	(7,000円)
	ワークショップ参加費（一般）	6,000円	(7,000円)
	ワークショップ参加費（大学院生）	4,000円	(5,000円)
	懇親会参加費（大学院生含む）	7,000円	(7,000円)
非会員	ワークショップ参加費（一般）	7,000円	(8,000円)
	ワークショップ参加費（大学院生）	4,000円	(5,000円)
	基調講演・シンポジウム参加費	—	1,000円（現金のみ）

2. 納入先

ゆうちょ銀行 口座記号番号 : 00530-6-87552
加入者名 : 日本臨床心理身体運動学会第22回大会実行委員会
<他行からお振込いただく場合>
ゆうちょ銀行 当座 ○五九店 (ゼロゴキユウ店) 口座番号 0087552

※ 令和元年(2019年)9月30日(月)までにご入金ください。なお、入金された諸費用につきましては返金できませんので、あらかじめご承知おきください。

VII. 宿泊・昼食等について

新潟駅周辺には沢山のホテルがありますが、大会期間にあたる週末はホテルの予約が取りにくくなっている状況がありますので、お早目のご予約をお願いいたします。また、大会当日の昼食につきましては、会場近隣のコンビニや飲食店をご利用いただくことが可能です。

※詳細につきましては、大会ホームページ(随時更新)、プログラム(大会前に郵送予定)をご参照ください。

VIII. 今後の予定と連絡先

令和元年 8月31日 研究発表(事例・一般)申し込み 〳切

→申し込み後に、大会事務局より希望者にメール(随時)

→発表題目・概要を大会事務局に提出(随時)

→発表の決定後、抄録テンプレートを発表者にメールにて送信

9月中旬 第2号通信発送(予定)

9月30日 発表者の抄録原稿 〳切

大会参加申し込み 〳切

諸費用納入 〳切(事前申込金額)

10月下旬 大会プログラム発送(予定)

第22回大会に関する連絡先(大会事務局)

第22回大会実行委員会

〒950-3198 新潟市北区島見町1398 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 山崎研究室内

TEL&FAX 025-257-4687 E-MAIL rinsinsin22nd@nuhw.ac.jp

URL <https://sites.google.com/nuhw.ac.jp/rinsinsin22nd>



学会入会、住所変更等に関する連絡先(学会事務局)

日本臨床心理身体運動学会事務局

〒600-8449 京都市下京区新町通松原下ル富永町107-1

株式会社 木立の文庫 内

FAX 075-320-3664 E-MAIL office@rinsinsin.jp URL <http://www.rinsinsin.jp/>

○ 日本臨床心理身体運動学会第 22 回大会 基調講演・シンポジウムご案内

大会テーマ：「行・鍛錬・修練—日本的なところとからだ」

基調講演：「私の必死な半年間～国際華嚴経学会特別講演のための華嚴経六十巻の写経三昧体験」

講演者：山中康裕（京都大学名誉教授・京都ヘルメス研究所長・本学会会長）

（基調講演に向けて）

今大会長の山崎史恵教授から大会テーマの講演を依頼された。

ご承知の如く、元来がピッコの故か、この類の「行とか、鍛錬とか、修練」と云った修業とは、正反対の生き方をとってきた人間なので、例えば、弓道や剣道の修練とかいったものも、オイゲン・ヘリゲルや「五輪書」などへの哲学的・美的な側面からの興味や関心はあったが、自らが身を挺しての修業などしたことがないので、本当は、断りたかった演題なのである。しかし、何としても、私の話を聞きたいという多くの方々の期待を耳にすれば、やはり、私としては、本学会の会長を引き受けている以上、そういった期待に応えざるまいし、だとすれば、それこそ、私自身の修練となるわけで、とうとう、この演題に取り組むことに相成ったわけである。

昔話や御伽噺に伝手を頼れば、義経は鞍馬山で天狗に教えを乞うたというし、わがゲドは、ローク島の大学院で、オジオンの指導を徹底的に受けている。私自身は、武道はまるでダメ夫だが、書の道を紐解くと、やはり、王羲之・黄庭堅・蘇軾と云った、中国古代から近世に至る名書家の筆の跡をたどって、ひたすら臨書し、その深奥の真骨頂にたどり着くまで必死で頑張ったことはある。

就中、思い出すのは、2008年2月のある日、フランスの東洋哲学研究所のジェラルド・フィリップと名乗る教授からの突然の電話で、その年の夏、パリ近郊のベレバ（Belesbat）なる中世の城で、国際華嚴経 Avatamsaka-sutra 学会を開催するが、そこで特別講演をしてほしい、との依頼であった。それまで、お経といっても、感無量壽経や阿弥陀経など無量壽経関係や、涅槃経・法華経・維摩経・般若心経辺りまでは読んだことはあるけれども、華嚴経など一度も見たことすらないので、即座に断ったのだが、しばらくして再度の依頼。何故、そういうことに全くの素人の私如きにそのような依頼が来るのか訊ねたところ、なんと、「正直言って、本当は河合隼雄先生に依頼していたのだが、何と、2007年7月19日に、お亡くなりになってしまい、プログラムに大穴が開いてしまって心底困っている。誰か河合先生の代わりになれる人をと、伝手を頼りに行き着いたのが先生で、他にはありえない」との懇請。それでも知らぬことを知ったかぶりして話すなんて芸当はできないし、ましてや外国語で90分もそれをするなんて考えられないと再度断ったが、三度目の正直というか、どうにも断れない状況に、何と、突然、縁起律的な事態が起こって、引き受けてしまったのであった。

縁起律的な事態とは、当日詳しく話すが、世にも不思議なことに、「明日、大阪で、六十華嚴展がある」というのである。聞けば、丁度50年前に、華嚴経の本山東大寺で「六十華嚴」を1300年ぶりに、全く新装するべく、当代の書家100人に写経をしてもらい、巻頭を飾っての矢張り当代の画家60人に、描いてもらって、それは成立したが、これまで一度たりとも展覧されたことがないので、書いた人々が次々と亡くなっていかれるのに業を煮やして其の開催を懇願したらやっと50年振りに二日間だけ大阪で開催されることとなった、という連絡が入ったのだった。見に行くと、華嚴経六十巻すべてが、展覧されており、早速その catalog を購入して、その日から写経に取り掛かり、なんと、学会の1週前に、それが完成したのである。結論から言えば、中井久夫先生は「それが正解だった」と言われたのだが、なんと、参加した60名近くの世界からの参加学者の中で、華嚴経六十巻すべてに目を通していたのは、ほんの数人だけであった。しかも、その間、梅尾の高山寺にも出かけ、漢詩もものし、極めつけは1個の箱庭作品に纏めて勇躍出かけたのだったが、その半年間というもの、ひたすら写経三昧の私を、周囲は、モノに憑かれたか、発狂したかと思っただけだったという。かくして、墨を摺り、筆を持ってひたすら和紙に向かう私は、周囲には鬼気迫るモノを感じたに違いないと思う。これぞ、身読・真読そのものであり、指先から体を伝わって、目と手と心が相和して、結局、その自ずからなる精神を攫み、身読・真読していったわけなのであった。

○日本臨床心理身体運動学会第 22 回大会 ワークショップのご紹介

ワークショップA：布コラージュ療法の実践と実例について

講師：山中 康裕 先生（京都大学名誉教授・京都ヘルメス研究所長）

【内 容】布コラージュは、京都ヘルメス研究所の芸術療法士・藤井智美によって開発され、私の研究所で洗練された方法で、森谷の言う箱庭療法から思いついたというコラージュ療法とは、何の関わりもなく、独自に開発された方法で、その肌触りや幼い頃や若い頃の記憶から、女性や老人に、特にいい方法であると思われる。

今回、演者自身が、その実例を挙げるとともに、会場で、実践的にワークショップを開催するので、各自、鋏と端切れを持ちよってほしいと思う。台紙は、藤井の原法は、ハガキ大の用紙であるが、私は、バウムテストや風景構成法等と同じく、A4 の画用紙もしくはケント紙を用いてきた。コピー用紙でも構わない。☆はさみ・布は参加者各自で可能な範囲でご持参ください。（会場に予備のはさみと布はいくつか用意します。また A4 台紙・のりは実行委員会の方で用意します。）

ワークショップB：「身体知」の心理臨床 ー心的機能からの視点ー

講師：名取 琢自 先生（京都文教大学） 高橋 幸治 先生（大阪府立大学）

【内 容】ユング心理学のタイプ論では、人間が内界・外界から情報を得る「機能」として思考、感情、感覚、直観の四種類が論じられている。アスリートが競技との取り組みで開発し、実践している「身体知」には独自の深さと精密さが備わっており、ひとつの「機能」ともみなしうのではないか。アスリートとの心理臨床の事例から、「身体知」の理解を深めたい。

ワークショップC：イメージを蘇らせるーヴァールブルクのイメージ学から見たバウムテスト

講師：岸本 寛史 先生（静岡県立総合病院）

【内 容】イコノロジーの祖とみなされてきたヴァールブルクはディディー・ユベルマンなどによる再評価を経てイメージ学や文化学の先駆者として見直されている。（ヴァールブルクはかつてピンスワンガーのサナトリウムで療養していたが、エルンスト・カッシーラーの助けも得て、精神病状態から抜けていく。）イメージを科学的、客観的に分析する実証主義的な立場ではなく、その単独性を重視し、過去がそこで生き、そこで残存する歴史としてその衝撃を受け止める。いわば、死体を解剖するのではなく、幽霊のごとく残存するイメージに命を吹き込む。ヴァールブルクのイメージ学にはそんな眼差しが生きている。

バウムテストにおいて描かれたバウム描画を、死体のごとく腑分けして解釈しても臨床には生かせない。バウムを臨床に生かすための手掛かりを、ヴァールブルクのイメージ学に求めてみたい。

ワークショップD：夢のイメージは時空を超えて

講師：山 愛美 先生（京都先端科学大学）

【内 容】言葉や形にならないイメージは、時空を超えて人間の心や社会に深く影響を及ぼしている。しかし残念ながらこのようなイメージは、私たちの日常の「目」には見えない。新海誠の『君の名は。』や村上春樹の制作にまつわる本人のインタビュー、イメージが世代を超えて伝わる現象などを取り上げながら、夢のイメージのもつ力について考えたい。目に見える結果や効率の良さばかりに人々の目が向く傾向があるように見受けられる現代社会を見つめ直す機会になればと思う。

日本臨床心理身体運動学会第22回大会 参加申込書

フリガナ 氏名	参加種別	<input type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 一般会員 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員
所属	<input type="checkbox"/> 学部生 <input type="checkbox"/> 院生(M/D 年)	
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 所属先 〒	
TEL	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 所属先 <input type="checkbox"/> 携帯 ※ 直接連絡が取れる番号をご記入ください	
e-mail	※ 直接メールが受け取れるアドレスをご記入ください	
臨床心理士番号	※ 有資格者のみご記入ください	

※ 非会員の方は、これ以降、「2.基調講演&シンポジウム」、「3.ワークショップ」のみ記入し、お申し込みください。

下記1～5について、□にチェック✓をつけてください。

大会(11月30日(土)～12月1日(日)) 参加について

1. 研究発表(11月30日(土)) 参加 する しない
2. 基調講演&シンポジウム(12月1日(日)) 参加 する しない(非会員参加可)
3. ワークショップ(12月1日(日)) 参加 する しない(非会員参加可)

※ 第1希望と第2希望まで、コースの隣に数字をご記入ください。

- A () 山中 康裕 先生
- B () 名取 琢自 先生 ・ 高橋 幸治 先生
- C () 岸本 寛史 先生
- D () 山 愛美 先生

4. 懇親会(11月30日(土)) 参加 する しない

5. 研究発表(11月30日(土)) の申し込み

事例研究発表を希望 一般研究発表を希望 希望しない

※ 共同研究者は、「希望しない」を選択してください。

※ 発表希望者には、申込受付後、大会実行委員会からメールにてご連絡します。